ネガティブなニュースを「好む」のは誰か? (2)

村上幸史

(神戸山手大学 現代社会学部)

key words: 主観的幸福感・ニュース・しろうと信念

Who "prefer" the negative news? (2)

Koshi Murakami

(Kobe Yamate University, Faculty of Contemporary Society)

key words: subjective happiness・news・lay theory

(問題)

村上 (2014) は、事故や犯罪、トラブルなど社会面の 56.2% がネガティブな記事で占められていることを示している。この要因を探るべく、他者に生じたネガティブなニュースの好みに関して、Lyubomirsky & Ross (1997) が指摘するように、他者と比較した相対的な幸福感に注目して実験が行われた (村上, 2014)。

とりわけ注目されたのは、「成功するための資源が一定量しかなく、取り合いになる」という、対人間に仮定される資源の限定観である「対人的定量感」が、主観的幸福感を低下させること (村上, 2012) から、「対人的定量感」を持つこと自体が、ネガティブなニュースの関心度合いを高め、結果的に主観的幸福感を低下させるという仮説が立てられた。

しかしながら、実験の結果では「対人的定量感」はネガティブなニュースの好みと関連していたが、その対象に対してネガティブな印象を持つ程度は「対人的定量感」の種類や記事により異なっており、また幸福感の変動も見られなかった。

この要因として、紙記事を用いて結果の照合のために、質問用紙に記入させた影響が考えられた。本研究では web 上で匿名性を確保して同様の実験を行い、その効果を再検討した。

(方法)

参加者 大学生 51 名。村上 (2014) で差異が見られなかったことと、また以下の手続きのように、匿名性を保つため、性別の記入は求めなかった。

手続き 参加者には「ニュースに関する調査」を行うことを説明し、web 上の質問項目に回答を求めた。web は 4 ページから構成されており、初めの 3 ページは記事とその記事に関する回答項目となっている。記事は現実生じた「毒物発言で失職」「落書きで野球部監督を解任」「飲酒運転をつぶき停学」という 3 つの記事から構成されており、いずれも内容は加害者の責任でネガティブな結果を招いたものになっている。この記事は村上 (2014) で用いたものと同内容である。また最後のページでは、その他の項目に回答を求めた。匿名性を確保するため、各ページで統一した ID (ランダムに配布した数字) を記入してもらうことで、集計は ID を照合して行った。

回答項目 記事を読んだ後に回答を求めた項目は、他者の不幸に関する尺度の 2 因子 (澤田, 2008) と「幸福だ」「不幸だ」「ざまあみろ」など感情に関する項目 (7 段階)、記事の対象人物が「どの程度非難を受けるべきだと思うか (自己非難)」、「記事になった当時は、ニュースの一般的な読者はどの程度彼を非難していたと思うか (他者非難)」(7 段階) である。

また最後のページで求めたその他の項目は、資源の限定観に関する項目 (村上, 2012) のうち、「対人的定量感 (世界、自分の周り)」の 18 項目である。これらは「感情」(幸福や愛情など)・「勢い」(運や人気など)・「成功資源」(チャンスや出会いなど) の 3 カテゴリーに分類して用いた。その他に、尋ねた項目は主観的幸福感尺度 (SHS, 島井ら, 2004)、全般的な生活満足度尺度 (SWLS, 大石, 2009)、ニュースへの関心度合いである。各項目は、セッションの前後で測定を行った点以外は村上 (2014) に準じている。

(結果)

ニュースと感情判断 3 つのネガティブな記事に関する平均値については、村上 (2014) と比較すると、自己非難の値はかなり低く、シャーデンフロイデ感情得点はかなり高かった (Table1 参照)。これらの感情評定に関して、「対人的定量感」の高低を独立変

数として分析したところ、まずシャーデンフロイデ感情得点については、「毒物発言」と「落書き」のニュースでは「感情」カテゴリー高群の方が得点が高く、また「飲酒運転」のニュースでは、「勢い」カテゴリー高群の方が得点が高い傾向が見られた。「毒物発言」と「落書き」のニュースについては、「ざまあみろ」という項目でも同様の傾向が見られた。

次に自己非難については、「毒物発言」のニュースでは「勢い」カテゴリー高群の方が、「落書き」のニュースでは「感情」カテゴリー高群の方が得点が高い傾向が見られた。他者非難については、「飲酒運転」と「落書き」のニュースで同様の傾向が見られた。基本的にはシャーデンフロイデ感情得点、自己非難、他者非難において、「対人的定量感」の高群の方が得点は高かった。

幸福感との関連 まず「対人的定量感」と主観的幸福感の関連性については、「対人的定量感」の全てのカテゴリーで、高群の方が主観的幸福感尺度得点が低かった。全般的な生活満足度尺度得点については、「成功資源」のカテゴリーのみ同様の傾向が見られた。

上に挙げたように、「毒物発言」と「落書き」のニュースでは、「感情」カテゴリー高群の方がシャーデンフロイデ感情得点は高かったが、主観的幸福感尺度低群の方が「対人的定量感」を持つほど、シャーデンフロイデ感情得点が高いという交互作用が見られた。またこの傾向は「飲酒運転」のニュースで、「勢い」カテゴリーとの間にも見られた。

シャーデンフロイデ感情得点は、「飲酒運転」と「毒物発言」のニュースで、全般的な生活満足度尺度得点 (SWLS) と正の相関を示していた ($r = .37, .26$)。

(考察)

全体として「対人的定量感」を持つことで、ネガティブなニュースの対象に対する非難の程度が高まり、また全般的な生活満足度が高いほど、他者の不幸を喜ぶ傾向である、シャーデンフロイデ感情も高く、また主観的幸福感尺度が低い者が「対人的定量感」を持つことで、シャーデンフロイデ感情が高まる傾向から、ニュースに接することが主観的幸福感と関連していることが示された。

記事による傾向の違いは、「飲酒運転」は学生であり、中年男性や女性の「落書き」や「毒物発言」と対象の年齢層が異なったことによると考えられる。

ただし匿名性を高めた反面、村上 (2012) の同様の実験と比較して、自己非難の値は大きく低下していた。他者非難の値は高かったことから、ニュースが取り上げられることで、第三者的に他者が非難されていることが、主観的幸福感に結びついている可能性が高いと考えられる。

(引用文献)

- Lyubomirsky, S., & Ross, L. (1997). Hedonic consequences of social comparison: A contrast of happy and unhappy people. *Journal of Personality and Social Psychology*, 73, 1141-1157.
村上幸史 (2012). 奪い合いの意識は不幸を招くか? — 資源の限定観からの検討 — 日本社会心理学会第 53 回大会論文集, 235.
村上幸史 (2014). ネガティブなニュースを「好む」のは誰か? 日本心理学会第 78 回大会論文集, 133.
大石繁宏 (2009). 幸せを科学する—心理学からわかったこと 新福祉社
澤田匡人 (2008). シャーデンフロイデの喚起に及ぼす妬み感情と特性要因の影響 感情心理学研究, 16, 36-48.
島井哲志・大竹恵子・宇津木成介・池見陽・Sonja LYUBOMIRSKY (2004). 日本版主観的幸福感尺度 (Subjective Happiness Scale: SHS) の信頼性と妥当性の検討 日本公衆衛生雑誌, 51, 845-853.
(MURAKAMI Koshi)

※この研究は日本学術振興会科学研究費補助金 (若手研究 (B) 23730596) の助成を受けた

Table1 提示した記事に関する評定平均値

	自己非難			他者非難			シャーデンフロイデ得点		
	感情	成功資源	勢い	感情	成功資源	勢い	感情	成功資源	勢い
低群	2.09	2.76	2.28	2.65	1.86	2.93	6.14	6.00	5.92
高群	6.14	6.00	5.92	6.19	6.27	5.90	24.09	27.66	25.08
毒物発言	1.95	2.38	2.04	2.35	1.82	2.48	3.64	4.38	3.84
飲酒運転	1.95	2.38	2.04	2.35	1.82	2.48	3.64	4.38	3.84
落書き	2.23	3.07	2.48	2.92	2.36	2.97	4.82	4.97	4.88
	4.92	5.36	4.55	24.50	29.93	25.64	29.46	26.50	28.41